

2026 年 8 月 24 日

【SUPER GT 第 5 戦 / 鈴鹿サーキット レポート】
真夏の鈴鹿決戦、高負荷の厳しいレースでヨコハマタイヤ勢が速さを見せた



SUPER GT 第 5 戦が鈴鹿サーキットで開催。第 4 戦富士大会も気温 30 度を超える暑いレースとなったが、8 月下旬に入った東海地方はさらに気温が上昇し、予選が行われた 8 月 22 日(土)は 35 度、23 日(日)の決勝レース中も 33 度という気温を記録した。

公式予選では、GT500 クラスで唯一ヨコハマタイヤを履く WedsSport BANDOH GR Supra(国本雄資選手／阪口晴南選手)が今季初めて Q1 を突破。午前中のフリープラクティスは赤旗中断で走行時間が削られてしまっていたが、「ショートランは確認できたので、予選に向けては手ごたえを感じていました」という阪口選手が Q1 を担当し、6 番手で国本選手につなぐ。「タイヤに対して高負荷の鈴鹿に向けて新しいコンパウンドのタイヤを持ち込みましたが、ピークのパフォーマンスも高く、狙い通りのところに行けていると思います」という国本選手は、阪口選手同様 6 番手に。今季初の Q2 進出から、3 列目のグリッドを獲得した。GT300 クラスでは Q2 を戦う 18 台中、10 台がヨコハマタイヤユーザー。UPGARAGE AMG GT3(小林崇志選手／新原光太郎選手)が最上位の 5 番手で、前戦富士大会で活躍した CARGUY Ferrari 296 GT3 EVO(ザック・オサリバン選手／梅垣清選手)が 6 番手に並んだ。

23 日(日)の決勝レースは、一番気温の高い午後 1 時 30 分にフォーメーションラップがスタート。WedsSport BANDOH GR Supra のスタートドライバーを務める国本選手は、オープニングラップから果敢に前を攻めるが、決定的なチャンスがなかなか来ず周回数が進んでいく。GT300 クラスがバックマーカーとしてコース上に現れ始めると一時的にギャップは広がるものの、ペースは周りと同色なく、国本選手は巧みに GT300 車両を処理して再び差を詰めていった。

ところが、14 周目のホームストレートで、WedsSport BANDOH GR Supra は急激にペースを落とす。右フロントタイヤにトラブルが発生し、国本選手はマシンを壊さないように慎重に 1 周を回ってピットイン。タイヤを履き替えて再びコースへと戻っていく。チームはストラテジーを組みなおし、国本選手はこのあと 33 周目まで走行すると、阪口選手へとバトンタッチした。阪口選手はタイヤのウォームアップとともに一気にペースアップ。38 周目に 1 分 48 秒 986 というタイムでチームベストを更新すると、さらに翌周には 1 分 48 秒 528 で全

体のファステストラップを更新した。レースは終盤に GT300 車両のクラッシュがあり、セーフティカー先導のもとでフィニッシュ。タイヤトラブルからのスロー走行が響き、WedsSport BANDO H GR Supra は 13 位という結果になった。



GT300 クラスは、前戦の 3 位表彰台獲得で 48kg というウェイトを搭載することになった CARGUY Ferrari 296 GT3 EVO が活躍。ペースの良さを武器に早めのタイヤ交換でアンダーカット作戦を成功させ、予選では敗れた UPGARAGE AMG GT3 も逆転し、ポジションを上げていった。終盤は 2 台が連なって 3 番手、4 番手を走行していたが、残り 6 周で 2 番手を走っていたライバルがトラブルから戦線離脱。2 台は 2 番手、3 番手に浮上すると、最後はセーフティカーランでそのままチェッカー。ヨコハマ勢の 2 台が表彰台を占める結果となった。

■ 国本雄資選手 (WedsSport BANDO H GR Supra)

【今回の成績：GT500 クラス 13 位】

決勝レースでは、タイヤトラブルが起きるまでは周りと同じようなペースで走っていて、あのまま走っていればかなりチャンスはあるぞと期待できるものでした。西コースの路面改修や、暑さ、それと去年や一昨年に比べてレースペースが速くなっていることなどから、タイヤへの負荷は非常に大きくなっていますが、それでも今回新しく作ってきたタイヤは、鈴鹿では非常に機能していたと思います。今年はテストの機会が減ってしまい、新しい構造やコンパウンドに対する耐久性をしっかりと見ることができておらず、こういうトラブルにつながってしまったことは残念ですが、方向性は見えてきましたし、それをしっかりと形にすれば後半戦でも狙っていけるレースがあると思います。

■ 阪口晴南選手 (WedsSport BANDO H GR Supra)

【今回の成績：GT500 クラス 13 位】

僕のステイントは予定外で短くなってしまいましたが、ガソリンの残量が少なく、タイヤの状態もいいというタイミングで速いタイムを出すことができました。ピークグリップも高く、思い切って走れる状態があったのは収穫だったと思います。鈴鹿というコースに対してどういうタイヤを作って挑めばいいのか、そういった認識を持ってしっかりと予測して準備してきたので、かなり手ごたえを感じられた週末でした。ただ、これで満足したり、この傾向に引っ張られすぎてしまうと、他のコースではうまく行かなかったりすることも出てくると思います。次戦に向けて、同じように対策をしっかり練って、攻略していきたいですね。

■ ザック・オサリバン選手 (CARGUY Ferrari 296 GT3 EVO)

【今回の成績：GT300 クラス 2 位】

前戦よりも成績が上がり、嬉しいです。予選でも決勝でも、同じフェラーリ勢の中でトップを獲れたのは非常にいい結果だと思います。ヨコハマタイヤのアウトラップの速さを活かし、早めにピットインしてアンダーカットを狙いました。うまく前に出ることができたので、最終的にこの結

果がついてきたのだと感じています。2 戦連続の表彰台で、後半はウェイトがさらに厳しくなりますが、それぞれのレースでベストを尽くして戦っていきます。

■梅垣清選手 (CARGUY Ferrari 296 GT3 EVO)

【今回の成績：GT300 クラス 2 位】

走り出しからペースも悪くなく、デグラデーションも少ないタイヤで走ることができましたが、接近戦の中でダーティエアでのダウンフォース抜けるに苦しんだ部分がありました。レースのシチュエーション的には仕方のないところだと思いますが、今後に向けていい経験を積めたと考えています。さらにサクセスウェイトが重くなるので、しっかりとチームとコミュニケーションを取りながら、いい対策をしていきたいと思っています。

■小林崇志選手(UPGARAGE AMG GT3)

【今回の成績：GT300 クラス 3 位】

今年はこれまで、レースペースが非常に悪く、どうしても予選順位を守り切れない戦いが続いていましたが、今回ヨコハマタイヤさんが用意してくれたタイヤが非常にパフォーマンスが高く、またチームもクルマをうまくアジャストしてくれたことでマッチングが良く、速さを出すことができました。基本的なリクエストは去年と変わっていないのですが、アジャストの仕方やタイヤの使い方を工夫した結果、表彰台につながったと思います。今回のレースをしっかりと検証して、次戦もこれを再現できるように頑張ります。

■新原光太郎選手(UPGARAGE AMG GT3)

【今回の成績：GT300 クラス 3 位】

今回、初めてセカンドスティントを担当することになりました。これまでの 3 戦は流れが悪かったので、すべて変えていこうという監督の采配が当たった感じです。アウトラップで冷えたタイヤのときに少し順位を落としてしまったのですが、そこはもう少しうまくやれたことは絶対にあったと思います。ペースが良かっただけに、そこでチャンスをつぶしてしまったことは悔しいです。良いドライバーになるためにも、そこを磨いていきたいと思いました。